

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	サンイン技術コンサルタント新社屋		階数	地上3F
建設地	鳥取県米子市東山町8-1		構造	S造
用途地域	第一種住居地域、建築基準法第22条	平均居住人員	100人	
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)	
建物用途	事務所		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2020年12月26日	
敷地面積	1,153 m ²	作成者	清水 勉	
建築面積	712 m ²	確認日	2020年12月27日	
延床面積	2,085 m ²	確認者	清水 勉	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 74% (138 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 74%

④上記+: 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 新型コロナウイルス対策への取り組みに併行して、適切な換気量設計をしつつ冷暖房設備の省エネ化等を図った。		
Q1 室内環境 新型コロナウイルス対策に挑み、冷暖房設備に「コロナウイルス除菌ユニット」や「ウイルス吸着フィルター」を採用した。	Q2 サービス性能 実験室の一部には十分な排気を行えるドラフトチャンパーを設置し、温調・除湿した外気を吸気出来る外気調整機を併用することにより、実験室空気環境の快適性を実現出来る様設計した。	Q3 室外環境 (敷地内) 前面道路に面した部分に植栽を施し、往来される通行者等の皆様へ配慮した。
LR1 エネルギー 建物の外皮性能の向上を意識した計画とした。	LR2 資源・マテリアル 節水型トイレ、水栓の採用で節水に心掛けた。	LR3 敷地外環境 自然光を取り入れることで地球温暖化に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される